場面が変わらない、一幕劇が好き

**演劇が大好きな吉松眞里子さんは、
お芝居観たさにWOWOWに入ろうとするも、
受信環境の問題でひかりTVにも加入することに。
毎月の出費を強いられながら、
お芝居はやっぱり“ライブ”が一番と公言する、
お茶目なグラフィックデザイナーさんです。**

フォトグラファー／K's 山本 聡子　イラストレーション／Tomo

私、国立劇場の舞台に立ったことがあるんです（笑）

――そもそも吉松さんにとって、お芝居は「観るもの」ではなく「演じるもの」だったと伺い、もっとお話が聞きたい！と思ったのがオファーのきっかけでした。

「私、高校時代、演劇部に入っていたんです。でも部員がなかなか集まらなくて、脚本を担当していた顧問の先生が、舞台裏の手伝いに来てくれた生徒を強引にキャスティングし、なんとか“役者”を集めている状態でした」

――しかし、脚本のユニークさとチームワークのよさで、吉松さんの演劇部は高校演劇コンクールの九州大会で優勝！さらに全国大会に出場することになり、吉松さんは東京の国立劇場で舞台デビューを果たすことに。国立劇場といえば、歌舞伎や文楽、雅楽など、日本の数ある伝統芸能を継承してきた場所です。さぞ緊張されたと思いきや、

「自分でも意外なんですけど、舞台に立つと客席はほとんど見えないから、お芝居の世界に没頭できるんです」

――吉松さんはその後、高校を卒業して劇団を旗揚げし、福岡に出てくるまで活動されていました。劇団は今も存続し、顧問の先生を含むメンバーとはずっと交流が続いているそうです。

ナイロン100℃が大好き！東京公演も行っちゃう

――やっぱり自分で演じる人は、観劇のポイントも違うのでしょうか？

「いえいえ、そんな特別なことはないですよ。ただ最近の演出は凝っているから、お芝居と映像が融合するシーンなどは思わず引き込まれます」

――うわあ、おもしろそう！ちなみに、吉松さんの好きな劇団はどこですか？

「ナイロン100℃です。たまに東京公演にも足を運んでいます。ナイロン100℃の舞台は、場面転換がない“一幕劇”が多いですね。何度も暗転してセットが変わるよりも、同じ場所でいかに流れを変えずに時間やシーンが変わったことを表現するか、その手法を観るのも楽しみです」

――吉松さん曰く、役者さんの魅力が一番伝わるのは舞台なのだそう。確かに、高嶋兄はテレビで観るより、博多座で観たミュージカルの方が数倍も輝いていた…

「まさにそれです（笑）。私がお芝居を観て好きになった女優さんは、小池栄子さんや神田沙也加さん。演劇って、テレビでは伝わらない役者さんの一面を発見する、そういう楽しみもあると思うんです」

いつか、演劇に関するデザインができたらいいな

――お芝居を観ることで、デザインの仕事に生かされることってあるのでしょうか？

「仕事で芝居好きな方と出会うと、異常に盛り上がれることかな。地元の劇団のフライヤーをつくることはありましたが、いつかは演劇に関するデザインができるといいですね」

――吉松さんにとって、演劇は異空間を体験できるものであり、まさにHAPPYな存在そのもの。演劇の魅力を知る彼女だからこそできるデザインが街中にあふれる日も、そう遠くないのかもしれません。

Profile
yoshigoto／グラフィックデザイナー
吉松 眞里子
鹿児島県出身。短大在学中に秘書資格を取得するも、デザインの道に進むため卒業後1年間アルバイトで学費を貯め、デザイン学校に進学。2009年にyoshigotoを設立し、グラフィックデザイン全般に携わる。シンプルで遊び心のあるデザインは人気が高く、「BOOK at ME」ブックカバーデザインでは、クリエーターズ投票第2位を獲得。

ファン歴11年、ナイロン100℃の公演パンフレット。毎回、趣向を凝らしたデザインにも釘付け！